

モニタリングサイト 1000 陸水域調査 (湖沼) 淡水魚類調査

琵琶湖サイト

— 滋賀県高島市、大津市 —

琵琶湖は、日本最大の面積 (670 km²) を誇る淡水の断層湖です。流入する一級河川は 119 本ありますが、流れ出る河川は淀川 1 本のみで、瀬田川、宇治川、淀川と名前を変えて大阪湾に注いでいます。古琵琶湖まで遡ると約 400 数十万年、現在の湖盆が形成されてから約 40 万年の歴史を有する世界有数の古代湖でもあります。そのため多くの固有種が生息し、16 の固有種・亜種を含む約 70 種の魚類が確認されています。

琵琶湖は、1950 年に琵琶湖国定公園に指定され、1993 年にラムサール条約登録湿地に指定されました。また、環境省の「重要湿地」にも選定されています。

調査結果の概要

琵琶湖サイトは今年度から新たに設置したサイトで、針江 (高島市) と和邇 (大津市) に調査地を設けました。1 回目の調査は 6 月 29、30 日と 7 月 4 日に、2 回目の調査は 12 月 7、8 日に実施しました。定置網に入網した魚類を回収し、種を同定し、種ごとに総個体数と総湿重量を測定しました。また、定置網で採集しにくい魚種を補うため、投網とタモ網を用いた採集を行いました。和邇ではエリで漁獲された魚類の提供を受けて調査を行いました。

調査の結果、針江では合計 19 種 (未同定種 1 種を含む)、和邇では合計 25 種 (未同定種 2 種を含む) の魚類が確認されました。それぞれの調査場所で 2 種の国外外来種 (オオクチバス、ブルーギル) が確認されたほか、環境省レッドリスト掲載種が合計 11 種確認されました。針江では絶滅危惧ⅠA 類が 1 種 (ホンモロコ)、絶滅危惧ⅠB 類が 2 種 (ニゴロブナ、ウツセミカジカ)、絶滅危惧Ⅱ類が 1 種 (ハス)、情報不足が 1 種 (ドジョウ)、和邇では絶滅危惧ⅠA 類が 2 種 (ホンモロコ、イサザ)、絶滅危惧ⅠB 類が 3 種 (ニホンウナギ、ニゴロブナ、ウツセミカジカ)、絶滅危惧Ⅱ類が 3 種 (ハス、スゴモロコ、ゼゼラ)、準絶滅危惧が 1 種 (ビワマス)、情報不足が 2 種 (ドジョウ、ビワヨシノボリ) が確認されました。

【調査者・調査協力者】

渡辺勝敏・田畑諒一・山崎 曜・三品達平・遠藤千晴・伊藤僚祐・大戸夢木 (京都大学大学院理学研究科)、中島 淳 (福岡県保健環境研究所)、藤本泰文 (宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団)、松崎慎一郎 (国立環境研究所)、阿部 司 (ラーゴ生物多様性研究室)、横井謙一・加藤 将 (WIJ)



和邇浜周辺の景観
(2016年12月7日撮影)



針江大川の河口に設置した小型定置網を回収する調査員
湖西漁協の同意及び滋賀県からの許可を受けて調査を実施した。
(2016年12月8日撮影)



薄く水を張ったバットに並べられたオイカワ
魚種ごとに写真撮影や計測を行う。
(2016年12月7日撮影)



エリ漁の漁船に乗り込む調査員
志賀町漁協の協力及び滋賀県からの許可を受けて調査を実施した。
(2016年7月4日撮影)



丸々と太ったオオクチバス (国外外来種)
肉食性で在来魚などへの影響が大きいため**特定外来生物**に指定されている。
(2016年6月29日撮影)



琵琶湖固有亜種のニゴロブナ (絶滅危惧種)
鮎寿司の材料として琵琶湖の食文化を支えている。
(2016年6月29日撮影)



朝日を背に投網を打つ調査員
湖面には列をなして立ち並ぶエリの杭が見える。
(2016年12月7日撮影)